

徳富蘇峰(本名・猪一郎)氏

(昭和30年1月1日表彰)

近世日本の先覚者。また、世界に稀な優れた思想家であった。熊本在住中は、白川新聞、熊本新聞等を発刊。大江義塾の創始者として子弟の教育に専念し、その啓蒙的影響が大であった。文久3年1月25日生れ、昭和32年11月2日死去、94歳。



高橋守雄氏

(昭和30年1月1日表彰)

第7代熊本市長として、歩兵23連隊の移転・市電・上水道の開設の三大事業を完遂、市の近代化、発展繁栄に尽した。また、教育者として熊本商大、短大学長を歴任、郷土教育の振興育成に努力した。明治16年1月1日生れ、昭和32年5月3日死去、73歳。



細川護立氏

(昭和35年4月1日表彰)

肥後旧藩主細川家16代。有斐学舎舎長、肥後奨学会設立、多額の奨学金を出資して本県出身学徒の育成援助に尽した。国の文化財保護委員会委員として、本市の重要文化財、史跡、名勝等の保存活用に貢献。明治16年10月21日生れ、昭和45年11月18日死去、87歳。



福田令寿氏

(昭和35年4月1日表彰)

医師開業のかたわら、医専五高等で教鞭をとり子女の教育に専念の外、社会文化、社会福祉の要職を歴任、郷土の文化・福祉の向上発展に尽した。清廉・潔白な人格者であった。明治5年12月7日生れ、昭和48年8月7日死去、100歳。



名誉市民

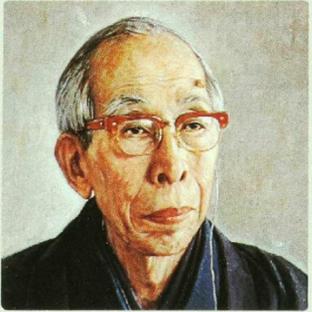
KUMAMOTO'S HONORARY CITIZENS



宇野哲人氏

(昭和44年10月1日表彰)

東京帝国大学での漢学・中国哲学の教授、東京大学名誉教授、実践女子大学学長、名誉教授等優れた業績は、郷土熊本の文運の興隆に、また、我国の漢学関係の学者に多大の影響を与えた。明治8年11月15日生れ、昭和49年2月19日死去、98歳。



堅山南風(本名・熊次)氏

(昭和44年10月1日表彰)

横山大観画伯等に師事し、日本画に精進。その多くの作品の上に、肥後の郷土色のにじみ出た芸術の香りがよく生かされている。日本画壇の第一人者といわれ、また、郷土文化の進展に大きく貢献した。明治20年9月12日生れ、昭和55年12月30日死去、93歳。



後藤是山(本名・祐太郎)氏

(昭和54年10月1日表彰)

元九州日日新聞社主筆。生来の文人墨客の性格と豊かな文筆で、数多くの郷土史を編さん監修、先人についての研究著述があり熊本の文化の啓蒙に尽した。「明星」同人、句誌「かはがらし」(後の東火)を主宰した。明治19年6月8日生れ、昭和61年6月4日死去、99歳。



中村汀女(本名・破魔)氏

(昭和54年10月1日表彰)

高浜虚子の門下生で、現代女流俳句の第一人者。常にふるさとを愛する心を底流にした「汀女俳句」は、氏の人柄と句にふれる人々に、郷土愛を喚起させ、郷土の文化振興に貢献。「ホトトギス」同人、「風花」を主宰した。明治33年4月11日生れ、昭和63年9月20日死去、88歳。



熊本は、昔から「火の国」と呼ばれてきました。大化の改新のあと、奈良時代に入って現出水校区内に国府がおかれ、ここを中心に聚落が形成されるようになりました。こののち、平安・鎌倉時代を経て室町時代になると、菊池一族である出田秀信が、はじめて熊本に千葉城を築き、数代後の城主鹿子木親員が、新しく茶臼山に城を築いて隈本城と呼びました。

豊臣時代に入って秀吉は全国を制覇するや小西行長と加藤清正に肥後を分領させたが、徳川の天下になると、加藤清正は肥後54万石の領主となり、慶長6年から茶臼山に築いていた新城を隈本城から熊本城に改めました。熊本市が町としての体制を整えたのは、このころからです。続いて細川忠利が肥後の領主となり、大政奉還までの二百有余年を細川家が政治を行って来ました。

明治10年西南の役で兵火を受け、市街地の大部分を灰燼に帰したが、直ちに復興し、明治22年には熊本市が誕生しました。大正から昭和にかけては隣接町村を合併しつつ熊本市の基礎を固め、九州における政治・経済・教育の中心地として発展を続けました。その後、昭和20年には大空襲で、終戦後の復興期に

あった28年には未曾有の大水害によって、市街地は壊滅的な被害を受けました。しかし全市民の不断の努力によって、困難を克服した熊本市はその後数次にわたる市域の拡大や近代的都市機能の集積を行い、近時では平成3年2月1日、飽託郡の北部町、河内町、飽田町、天明町と合併し、人口約63万人、面積約266平方キロメートルの熊本市が誕生しました。

この合併を機に、「熊本市基本構想」を策定し、これを基に「熊本市総合計画」を定め新たな一歩を踏み出しました。

その後、中心部の辛島公園地下駐車場の完成や、熊本港の一部開港など都市基盤整備が着々と進むとともに、国際交流会館や環境総合センターのオープン、そして福井市との姉妹都市締結が行われました。

また、地球規模での平和、及び環境保全の一翼を担うことを目指して「平和都市宣言」や「環境保全都市宣言」がなされました。

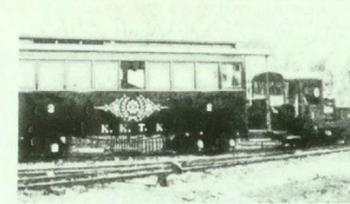
さらに、平成8年4月には中核市として、人情味あふれ全ての市民が幸せを実感できるまちづくりの実現を目指した新熊本市がスタートしました。

元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと
大化	2 (646)	砂取付近に肥後の国府および兵力4軍団が設置される	明	19 (1886)	熊本通信管理局(郵務・電務関係)が設置される	明治	24 (1891)	門司・熊本間の九州鉄道が開通	明治	25 (1892)	門司・熊本間の九州鉄道が開通
文明	1 (1469)	菊池氏の一族、出田秀信千葉城を築く	明	20 (1887)	第五高等学校(九州に1校)が創立される	明治	27 (1894)	熊本電燈会社が開業し九州に初めて電燈がともる	明治	28 (1895)	熊本電燈会社が開業し九州に初めて電燈がともる
明応	5 (1496)	鹿子木親員、古城に居城を移し、隈本城と称する	明	22 (1889)	市町村制が施行され、熊本市が誕生する	明治	29 (1896)	ラフカディオ・ヘルン(小泉八雲)五高に着任	明治	31 (1898)	ラフカディオ・ヘルン(小泉八雲)五高に着任
慶長	6~12 (1601~1607)	加藤清正、現在地に熊本城を築き、河川の築堤、井戸の掘削など行う	明治	6月	赤十字社熊本支部設立	明治	7月	塘林虎五郎が貧児寮(現大江学園)を設立	明治	10月	塘林虎五郎が貧児寮(現大江学園)を設立
寛永	9 (1632)	細川忠利、肥後藩主となる	明治	7月	新南千反畑町、現在の白川公園前に市役所が開庁	明治	11月	第6師団に動員令がくだる	明治	11月	第6師団に動員令がくだる
宝暦	4~6 (1754~1756)	藩校時習館、医学校再春館、蕃滋園(菓草園)などが創設される	明治	23 (1890)	教育勅語発令(井上毅と)	明治	11月	孤児・貧児の養育を目的とした天使園が設立される	明治	11月	孤児・貧児の養育を目的とした天使園が設立される
明	3 (1870)	古城に医学校が創設される	明治	6月	市議会議員数30人、市職員48人であった	明治	10月	日清戦争がはじまる	明治	10月	日清戦争がはじまる
明	4 (1871)	鹿藩置県により熊本県が設置される	明治	7月	第五高等中学が古城から黒髪に移転	明治	10月	イギリス人ハンナ・リデル女史が回春病院設立	明治	10月	イギリス人ハンナ・リデル女史が回春病院設立
明治	7 (1874)	鹿藩置県により熊本県が設置される	明治	7月	第五高等中学が古城から黒髪に移転	明治	10月	夏目漱石が五高に着任、熊本を森の都と称賛	明治	10月	夏目漱石が五高に着任、熊本を森の都と称賛
明治	10 (1877)	鎮西鎮台(九州および中国西部を管轄)が設置される	明治	7月	第五高等中学が古城から黒髪に移転	明治	10月	私立医学校が設立される	明治	10月	私立医学校が設立される
明治	10 (1877)	鎮西鎮台(九州および中国西部を管轄)が設置される	明治	7月	第五高等中学が古城から黒髪に移転	明治	10月	熊本専売支局が黒髪町に業煙草専売所設置	明治	10月	熊本専売支局が黒髪町に業煙草専売所設置
明治	10 (1877)	鎮西鎮台(九州および中国西部を管轄)が設置される	明治	7月	第五高等中学が古城から黒髪に移転	明治	10月	フランス人、ジョン・メリー・コール神父が癩救済の待病院を設立	明治	10月	フランス人、ジョン・メリー・コール神父が癩救済の待病院を設立
明治	10 (1877)	鎮西鎮台(九州および中国西部を管轄)が設置される	明治	7月	第五高等中学が古城から黒髪に移転	明治	10月	この年、市立避病院設立(後の白川病院)	明治	10月	この年、市立避病院設立(後の白川病院)
明治	10 (1877)	鎮西鎮台(九州および中国西部を管轄)が設置される	明治	7月	第五高等中学が古城から黒髪に移転	明治	10月	第23連隊練兵場が山崎町	明治	10月	第23連隊練兵場が山崎町



明治34年に市内の電話が開通した。交換手の白い上衣、袴は当時の女性の憧れだった。

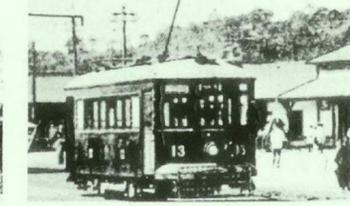
軽便鉄道。K.K.T.Kは熊本軽便鉄道株式会社の略。



大正10年、隣接1ヶ町村を合併し大熊本市が成立した。記念碑前で合併を祝う人々。



旧熊本城南大手入口の下馬橋。明治35年11月の陸軍大演習の際、行幸坂、行幸橋が造られ姿を消した。



大正13年6月1日市電開通。救助網がついている開通当時の13型電車。



大正末の市街地。合併による市域の拡大、三大事業の完成など、市の中心から周辺へと都市づくりが進む。



大正12年12月、市役所新庁舎完成。



昭和2年12月から17台の市営バスが走り始めた。(写真は昭和8年6月)



熊本市のあゆみ

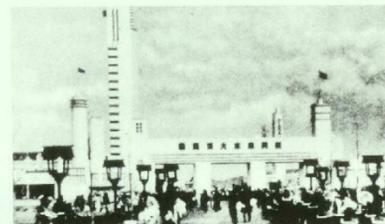
昭和5年10月 市公会堂新館が開館 昭和43年市民会館の出現に伴い取りこわされた。



昭和4年7月に水前寺動物園が開園。



昭和10年頃の市街記念碑前。市営バスの発着所。左に専売局と公会堂。右に勤業館、電話局が見える。



昭和10年3月から5月にかけて開かれた新興熊本大博覧会。



昭和26年6月26日「大水害の惨状。到る所泥の山。流失した家財などで復旧に多くの人手、資材と日数を要した。(上通の筋)

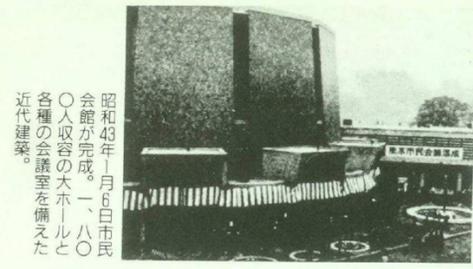


昭和35年10月、第15回国民体育大会は、全国から1万3千人が集まり盛大に開催された。

昭和35年9月、89年ぶりに熊本城天守閣が再建された。

年(西暦)	できごと	年(西暦)	できごと	年(西暦)	できごと	年(西暦)	できごと
32(1899)	から渡鹿に移る私立医学校が熊本医学専門校となる	44(1911)4月	市立実科高等女学校開校	12(1923)	手取本町に市役所新庁舎完成	5(1930)	熊本市歌を制定
6月		10月	菊池軌道株式会社が上熊本・広町間敷設	12月		3月	
12月	三角線開通			13(1924)	市営電車開通(車輛15台)	4月	市営勤業館が新市街に開館
33(1900)	市内に大洪水、白川の橋ほとんど流失し、子飼橋付近溺死者多数	2(1913)	この年、熊本軌道が田崎・百貫港、田崎・高麗門に開通	8月	市営電車開通(車輛15台)	10月	市公会堂新館が開館
7月				10月	歩兵第23連隊が渡鹿に移転	6(1931)	白坪村を市に合併
34(1901)	熊本郵便局が電話業務を開始	3(1914)	第1次世界大戦はじまる	11月	熊本市上水道完成	6月	
1月		7月		11月		11月	天皇陛下をお迎えし、熊本平野等で陸軍特別大演習を挙行
35(1902)	明治天皇をお迎えし、陸軍特別大演習を挙行	4(1915)	御大典記念奉祝共進会を開催	14(1925)	市三大事業(市電、上水道、23連隊移転)完成記念共進会開催	7(1932)	失業救済の土木事業をはじめめる
11月		11月		3月		9月	
36(1903)	行幸橋を架設	5(1916)	県公会堂が市に移管される	4月	出水村を市に合併	12月	画図村を市に合併
3月	市区改正の事業と新市街の事業完成	6(1917)	熊本市工業従弟学校が熊本商工学校となる	15(1926)	三大事業完成記念共進会の剰余金で五高と下河原にプールを造成	8(1933)	花園町に市営墓地を開設
37(1904)	日露戦争はじまり、第6師団出征	3月		8月		3月	花園町に市営墓地を開設
2月		7(1918)	このころより全国に米騒動	2(1927)	長六橋を近代式鉄橋に架け替える	4月	熊本高等小学校在再設開校
39(1906)	熊本高等工業学校設立	10月	スペイン風邪が流行し、全国で死者15万人	2月		2月	熊本駅に観光案内所を設置
9月	夏目漱石が「草枕」を発表	9(1920)	第1回国勢調査で、市人口70,388人(市史)	7月	市立工業研究所(後の工芸指導所)が開所	10(1935)	新興熊本大博覧会を開催
40(1907)	九州鉄道が国有となる	10月	市人口70,388人(市史)戸数 13,817戸	12月	市営バス発足(バス17台)	3月	
7月		10(1921)	隣接1ヶ町村を合併、人口133,467人、戸数23,819戸の大熊本市が発足	この年、市及び市付近の人口133,467人、戸数23,819戸の大熊本市が発足		11(1936)	健軍村を市に合併
12月	熊本軽便鉄道株式会社が安巳橋・水前寺間に軽便鉄道を敷設	6月		3(1928)	第16回総選挙、最初の普通選挙行われる	4月	清水村を市に合併
41(1908)	人力車争議おこる	11(1922)	熊本市立実科高等女学校が開校	2月	NHK熊本放送局でラジオ初放送	4月	川尻町、日吉村、力合村を合併
2月		4月		6月		12月	この年、市営バスに木炭車登場
42(1909)	鹿児島本線全線開通	11(1922)	熊本市立実科高等女学校が開校	9月	御大典記念事業として、陸上競技場・野球場が完成	15(1940)	この年、市営バスに木炭車登場
43(1910)	薬学専門学校発足	4月		4月		16(1941)	小学校が国民学校に改められる
1月		5月	熊本医学専門学校が医科大学に	4(1929)	水前寺動物園が開園	4月	太平洋戦争はじまる
4月	女子師範学校発足			7月		17(1942)	九州日日新聞と九州新聞
6月	熊本ガス株式会社が開業する						

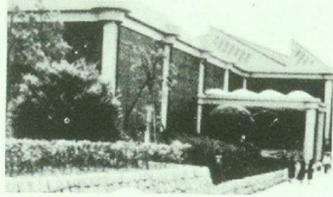
年(西暦)	できごと	年(西暦)	できごと	年(西暦)	できごと	年(西暦)	できごと
4月	が統合され、熊本日日新聞が発足	5月	天皇皇后両陛下ご来熊	1月	併	12月	動)がはじまる
18(1943)	この年、学徒、女子挺身隊の戦時動員が開始される	5月	この年、国立熊本大学発足、県立熊本女子大学が創設される	7月	大水害で市の33%が浸水し、金峰山周辺の山津波で死者、行方不明多数を出す	40(1965)4月	東部汚水処理場完成
	健軍に三菱重工業航空機製作所が完成する	10月	市立熊本保健所を上林町に開設	33(1958)	NHK熊本テレビ開局	9月	市食肉センター開所
19(1944)	市電気局が市交通局と改称	6月	朝鮮戦争おこる	2月		9月	この年、市内全小学校にプール完成
3月		7月	市競輪事業開設	4月	市民相談室を設置	41(1966)9月	西部清掃事業所開所
20(1945)	市立本荘産院が発足	7月	市立産院開設	10月	熊本保健所が九品寺1丁目に新装発足	42(1967)3月	西部清掃事業所開所
7月	7月・8月の空襲で市の大半が焦土と化す	4月	市教育研究所を設置	3月	出水町に県庁新庁舎が完成	43(1968)	市民会館開館
8月	終戦の詔書放送	1月	市立博物館開館	1月	市民会館開館	1月	市社会教育会館が開館
21(1946)	市立市民病院発足	7月	住民登録制度を実施	4月	市立図書館開館	4月	市育英奨学制度創設
2月	日本国憲法公布(新憲法)	9月	熊本市体育館が水前寺公園横に完成	9月	熊本市体育館が水前寺公園横に完成	44(1969)	熊本(水辺)動物園が完成し、「熊本動物大博覧会」を開催
11月	この年、学校給食はじまる	4月	国民年金制度発足	4月	国民年金制度発足	4月	熊本市章さまる
22(1947)	市長、県知事が初めて公選で決まる	6月	豪雨、大水害で市人口の66%が罹災	7月	国民健康保険制度発足	8月	熊本市章さまる
4月	国民学校が小学校に、また新制中学が誕生	7月	池上村、高橋村、城山村を市に合併	4月	熊本空港開設	45(1970)	託麻村を市に合併
5月	憲法、地方自治法施行	10月	市立図書館発足	5月	愛市憲章を制定	11月	託麻村を市に合併
23(1948)3月	市消防本部設置	9月	ラジオ熊本開局	8月	熊本城天守閣再建完成	46(1971)	新熊本空港開設
	市立母子寮を開設	10月	第15回国民体育大会を開催	9月	第15回国民体育大会を開催	4月	市勤労青少年ホーム開館
	市自治警察本部設置(新警察制度発足)	29(1954)	市自治警察廃止(警察制度改正)	12月	西保健所を開設	5月	九州縦貫自動車道
	新制高等学校発足する	6月	秋津村を市に合併	3月	「躍進熊本大博覧会」開催	6月	熊本市基本構想さまる
	「火の国まつり」はじまる	10月	市電30年記念「交通観光博覧会」を開催	37(1962)	天守閣再建記念「躍進熊本大博覧会」開催	7月	熊本市基本構想さまる
4月		4月		3月		11月	市立ユースホステル開館
24(1949)	市立実務員養成所(後の実務商業)を開設	30(1955)	松尾村を市に合併	38(1963)	北部清掃事業所開所	47(1972)	「森の都」を宣言し、森の都作戦を展開
4月		4月		4月	市総合計画策定(マスタープラン)	10月	秋津下水処理場が完成
		31(1956)	託麻村の一部を市に合併	4月		12月	秋津下水処理場が完成
		32(1957)	小島町、龍田村を市に合併	10月	「まちをキレイにする運	48(1973)	戸島町に市斎場開設



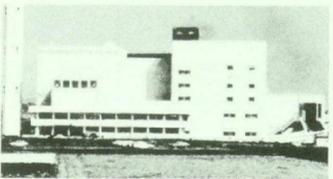
昭和43年1月6日市民会館が完成。一、八〇〇人収容の大ホールと各種の会議室を備えた近代建築。



昭和46年6月、熊本・植木間の高速自動車道が開通した。



郷土熊本に根ざした西日本一を誇る熊本博物館が昭和53年4月1日に開館した。



昭和54年4月、最新の処理機能を誇る東部清掃工場完成。



昭和53年8月、熊本の新しい夏まつり、市民総参加の「火の国まつり」が始まる。



昭和56年11月新市庁舎完成。



産業文化会館



昭和63年4月長瀬通り開通

元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと			
昭	48(1973)	学校給食東共同調理場が完成	昭	54(1979)4月	つり」が誕生	昭	8月	西ドイツ・ハイデルベルク市へ友好訪問団を派遣	昭	3月	電子計算システム始動			
	49(1974)	勤労婦人センターを本山町に開設		7月	新熊本市市民病院開設		10月	熊本市民の翼、友好都市桂林市を訪問		4月	西部清掃工場完成・東部清掃事業所開所	7月	総合体育館・青年会館開館	
	50(1975)	西部、南部市民センターが完成		10月	熊本市保健センター(現東部保健センター)が開所		11月	新市庁舎建設完成		8月	第4回全国都市緑化くまもとフェア開催	10月	市議会で飽託郡四町からの合併請願採択	
	51(1976)	森の都のシンボルとして市の木「イチョウ」、市の花「肥後ツバキ」がさる		6月	龍田市民センター完成		57(1982)	6月		幸田市民センター完成	3月	「熊本百彩」開幕	3月	平成学術園オープン
	52(1977)	身体障害者福祉モデル都市に指定される		7月	「健康都市」を宣言		7月	北部保健センター開設		10月	小楠記念館完成	4月	「水の科学館」開館	
	53(1978)	南千反畑町に中央老人福祉センターが完成		10月	中国・桂林市と友好都市締結		8月	中国・桂林市と友好都市締結		12月	青少年野外活動センター完成	3月	熊本市と飽託郡四町が合併	
	54(1979)	南千反畑町に中央老人福祉センターが完成		10月	市制90周年記念式典を行う		8月	西ドイツ・ハイデルベルク市、管楽五重奏団来熊		12月	新西保健所開設	4月	熊本市基本構想策定	
	55(1980)	市立金峰山少年自然の家が開所		55(1980)	6月		養護老人ホーム明生園開園	8月		川尻下水処理場運転開始	4月	「五福地域開発センター」が落成	5月	本荘犬洲線立体交差開通
	56(1981)	「地下水保全都市」を宣言		6月	身障者福祉センター希望荘開設		11月	58(1983)		4月	龍田体育館完成	5月	「ふれあいの森林」内に森林学習館がオープン	
	57(1982)	西南の役百周年記念式典を行う		8月	水害で約16,900人の市民の罹災者を出す		59(1984)	5月		市の鳥としてシジュウカラ制定	7月	南部市民センター開設	8月	金糸猴一般公開
和	58(1983)	熊本市人口が50万人を突破	12月	熊本市総合計画基本構想を定める	5月	扇田埋立処分場供用開始	9月	西消防署が移転新築	9月	宇土橋・数寄屋丸二階御広間完成				
	59(1984)	熊本市人口が50万人を突破	12月	熊本市保健衛生研究所開設	7月	清水市民センター完成	10月	第1回熊本緑化祭開催	10月	動物資料館完成				
	60(1985)	錦ヶ丘に東部市民センター完成	1月	熊本城西大手櫓門復元完成	8月	熊本市の人口が55万人を突破	12月	米国・サンアントニオ市と姉妹都市締結	12月	熊本城フェスティバル開催				
	61(1986)	地下水保全条例を制定する	2月	産業文化会館が開館	8月	熊本市の人口が55万人を突破	1月	くまもと女性フォーラム'88開催	1月	歴史都市サミット開催				
	62(1987)	地下保全条例を制定する	3月	託麻市民センター完成	10月	消防新庁舎完成	2月	シルバー人材センター発足	2月	政治倫理条例制定				
	63(1988)	新しい熊本博物館が開館	5月	熊本市総合計画基本計画を定める	6月	母子福祉センター完成	4月	大阪事務所オープン	3月	「総合婦人会館・カルチャーセンター」がオープン				
	64(1989)	市民総参加の「火の国まつり」が始まる	7月	熊本市総合計画基本計画を定める	8月	秋津市民センター完成	1月	シンボルマーク発表会	4月	「総婦人会館・カルチャーセンター」がオープン				
	65(1990)	市民総参加の「火の国まつり」が始まる	7月	熊本市総合計画基本計画を定める	1月	熊本市自転車駐車場完成	1月	長瀬通り開通	3月	武蔵塚公園が新たに開園				
	66(1991)	市民総参加の「火の国まつり」が始まる	7月	熊本市総合計画基本計画を定める	1月	熊本市自転車駐車場完成	1月	長瀬通り開通	4月	川尻下水処理場汚泥焼却場完成				
	67(1992)	市民総参加の「火の国まつり」が始まる	7月	熊本市総合計画基本計画を定める	1月	熊本市自転車駐車場完成	1月	長瀬通り開通	5月	川尻下水処理場汚泥焼却場完成				



平成元年4月 流通情報会館完成
 平成2年4月 総合婦人会館・カルチャーセンターオープン
 平成3年7月、くまもと工芸会館」がオープン
 平成4年11月、長寿の里デイサービスセンター完成
 平成5年3月 熊本港開港
 平成5年9月、大名屋敷・旧細川刑部邸完成
 平成6年10月「水の科学館」が開館
 平成7年6月、水資源国際会議
 平成8年10月、市制100周年記念式典
 平成9年2月、熊本市と飽託郡四町が合併
 平成10年2月、水資源国際会議
 平成11年2月、熊本市と飽託郡四町が合併
 平成12年2月、熊本市と飽託郡四町が合併
 平成13年2月、熊本市と飽託郡四町が合併
 平成14年2月、熊本市と飽託郡四町が合併
 平成15年2月、熊本市と飽託郡四町が合併
 平成16年2月、熊本市と飽託郡四町が合併
 平成17年2月、熊本市と飽託郡四町が合併
 平成18年2月、熊本市と飽託郡四町が合併
 平成19年2月、熊本市と飽託郡四町が合併
 平成20年2月、熊本市と飽託郡四町が合併
 平成21年2月、熊本市と飽託郡四町が合併
 平成22年2月、熊本市と飽託郡四町が合併
 平成23年2月、熊本市と飽託郡四町が合併
 平成24年2月、熊本市と飽託郡四町が合併
 平成25年2月、熊本市と飽託郡四町が合併
 平成26年2月、熊本市と飽託郡四町が合併
 平成27年2月、熊本市と飽託郡四町が合併
 平成28年2月、熊本市と飽託郡四町が合併
 平成29年2月、熊本市と飽託郡四町が合併
 平成30年2月、熊本市と飽託郡四町が合併

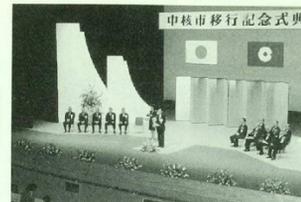
元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと
昭	63(1988)	大江市民センター完成	平	6月	中国・桂林市、アメリカ・サンアントニオ市、ドイツ・ハイデルベルグ市を迎え「水資源国際会議」を開催	平	5月	好都市締結の調印式	平	10月	透明ごみ袋によるごみ出し制度スタート
	7月	江津湖まつり(マイソング発表会)		8月	熊本駅前北地区第一種市街地再開発事業完了		7月	ハイデルベルク市と「医療基金」協定に調印			
	8月	くまもと緑化祭・地場産業振興フェア開催		8月	市民長寿社会憲章制定		8月	サンアントニオ市とエイズ対策で共同宣言			
	10月	市議会で飽託郡四町からの合併請願採択		9月	平成学術園オープン		9月	ゆうあいピック熊本大会開催			
	元(1989)	「熊本百彩」開幕		10月	「水の科学館」が開館		9月	老人保健福祉計画を策定			
	3月	流通情報会館完成		3(1991)2月	熊本市と飽託郡四町が合併		10月	天明総合支所庁舎が完成			
	4月	「水源かん養林記念植樹祭」		3月	熊本市基本構想策定		4月	東部環境工場が完成			
	12月	新西保健所開設		4月	「五福地域開発センター」が落成		10月	日吉・桜木中学校が開校			
	12月	川尻下水処理場運転開始		5月	本荘犬洲線立体交差開通		11月	高速消防艇「金峰」が任務に就く			
	4月	「ふれあいの森林」内に森林学習館がオープン		6月	「南部総合スポーツセンター」がオープン		5月	交通・水道事業70周年記念式典			
平	5月	南部市民センター開設	成	5(1993)2月	辛島公園地下駐車場が完成	成	8月	国際交流会館がオープン	成	6(1994)9月	「市民子ども憲章」を制定
	7月	西消防署が移転新築		6月	「天明コミュニティセンター」がオープン		4月	天明総合支所庁舎が完成			
	9月	教育センターオープン		7月	「くまもと工芸会館」がオープン		5月	東部環境工場が完成			
	10月	第1回熊本緑化祭開催		7月	熊本城フェスティバル開催		5月	日吉・桜木中学校が開校			
	12月	米国・サンアントニオ市と姉妹都市締結		9月	台風19号来襲		5月	高速消防艇「金峰」が任務に就く			
	12月	くまもと女性フォーラム'88開催		10月	動物園がオープン		8月	交通・水道事業70周年記念式典			
	1月	シルバー人材センター発足		4(1992)	熊本市総合計画基本計画策定		6(1994)9月	国際交流会館がオープン			
	2月	大阪事務所オープン		1月	高規格救急車が消防局に配備		3月	熊本港が一部開港			
	4月	シンボルマーク発表会		3月	熊本城周遊バスがスタート		8月	保田窪放水路完成			
	5月	長瀬通り開通		4月	熊本城周遊バスがスタート		9月	新熊本市史発刊			



平成5年10月、「火の国フェスタくまもと93」開幕



高速消防救助艇



平成8年4月
中核市移行記念式典



平成8年5月
後藤是山記念館落成



平成6年9月、国際交流会館オープン



平成7年1月、兵庫県南部地震
災害救援派遣団出発式



平成7年3月、子ども文化会館オープン



平成8年7月
世界の蝶と昆虫博覧会開催



平成8年10月
第1回くまもとお城まつり開催



平成6年9月、「市民子ども憲章」を制定



平成7年4月、市民交流サロンオープン



平成7年6月、環境総合センターオープン



平成8年10月、県民文化祭 in 熊本市開催



平成7年2月、福井市での
姉妹都市覚書調印式



平成7年4月、武蔵塚駅前自転車駐り場
オープン



平成7年12月、中核市政令公布



平成8年10月、くまもとと萩石博
「草枕」全国俳句大会開催

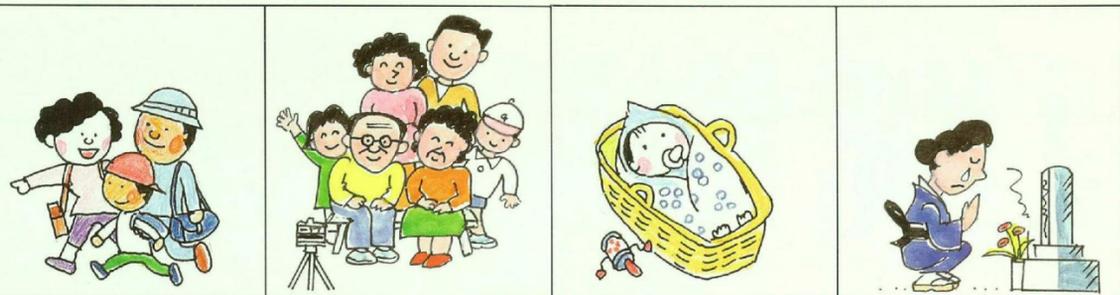


平成8年11月、自主防災クラブ旗贈呈式
並びに渡鹿公園防災施設完成式

元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと	元号	年(西暦)	できごと
平	7(1995)4月	武蔵塚駅前自転車駐り場 オープン	平	4月	小島及び松尾地域福祉コ ミュニティセンターオープン	平	7月	イセンターオープン	平	10月	萩石博オープニング
成	5月	日吉東小学校完成	成	5月	後藤是山記念館落成	成	8月	世界の蝶と昆虫博覧会開幕	成	10月	くまもとお城まつり開幕
	6月	環境総合センターオープン		6月	耐震性貯水槽(楠中央公 園)設置		9月	尼崎市と災害時相互応援 に関する協定調印式		11月	中核市サミット(堺市)
	9月	環境保全都市を宣言		6月	情報公開検討委員会設置		10月	中核市災害時相互応援協 定締結		12月	中核市移行記念式典
	11月	高齢者世話付住宅出水団 地完成		7月	庄口地域福祉コミュニテ ィセンターオープン			自主防災クラブ旗贈呈式並 びに渡鹿公園防災施設完成			九州新幹線建設促進総決 起大会(東京)
	12月	中核市政令公布		7月	「くまもとと未来国体」開催 の正式決定			地下水保全都市宣言20周 年記念式典			
	8(1997)1月	第1回熊本県消防広域応 援合同訓練		10月	向山地域福祉コミュニテ						
	4月	中核市移行									

市民の暮らし

平成8年



世帯人口 1世帯当り2.6人 人口密度 1km²に2,461人 出生 1日につき19.3人 死亡 1日につき10.5人



結婚 1日につき12.1組 離婚 1日につき3.8組 転入 1日につき94.6人 転出 1日につき93.6人 酒 1人1日0.16リットル



乗用自動車(軽自動車を含む) 1世帯に0.9台 犯罪 1日に28.7件 交通事故 1日に12.1件 市職員 市民96.2人に1人 消防職員 市民1,033人に1人



火災 1日に0.66件 水道使用料 1日1人あたり259円 ごみ収集量 1日に857トン 市税 市民1人当り124,186円 市の予算 市民1人当り294,660円

(人口関係は平成8年分、予算は平成8年度当初予算額、その他は平成7年又は7年度分の数値である)

KUMAMOTO CITY GUIDE MAP

熊本市案内図



資料編目次

1. 気象概況	82	24. 国民健康保険給付状況	
2. 熊本市の校区面積		25. 老人福祉状況	87
3. 推計人口・人口動態		26. 保育所の概要	
4. 年齢別（5歳階級）男女別人口		27. J R市内駅乗客数状況	
5. 熊本都市圏人口	83	28. 市内自動車登録台数	
6. 産業大分類別事業所数・従業者数		29. 市営電車・市営バス利用状況	
7. 農家数・農業就業者数・耕地面積の推移		30. タクシー及びハイヤーの登録台数	88
8. 工業の主要指標		31. 電話の概況	
9. 商業の主要指標		32. 郵便物取扱数	
10. 熊本市消費者物価指数	84	33. 電灯・電力需要状況	
11. 熊本市全世帯1か月間の平均支出		34. ガス需要状況	
12. 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学・専修・各種学校の状況		35. 上水道給水状況	89
13. 道路状況		36. 交通事故の状況	
14. 建築物用途別受付件数		37. 刑法犯罪認知件数	
15. 市内公園数及び面積	85	38. 火災の原因別件数	
16. 下水道状況		39. 救急活動状況	
17. 医療施設		市内の主な官公署	90
18. ごみ・し尿収集処理状況			
19. 市民病院利用状況			
20. 市立産院利用状況	86		
21. 熊本市の主要死因別死者数			
22. 生活保護状況			
23. 国民年金			

資料編